

私たちがめざすもの それは・・・

ゆたかな緑 きれいな水 いきた大地

NPO法人水環境研究所

わきみず通信

第18号

平成28年6月17日発行



大仏頂寺弘法の滝（印旛郡酒々井町）

活動レポート

「下総台地の湿地帯における水質浄化機能に関する調査」始まる！

印旛沼環境基金の助成事業として2年間続けた「谷津田における還元的役割調査」をさらに発展させ、千葉県環境再生基金の助成事業として平成28年度からスタートします。

本研究は、「湿地における脱窒作用を科学的に検証し、印旛沼流域の谷津田環境の保全に利活用できないか？」

をテーマに、3年間の計画で千葉大学の近藤昭彦教授の研究室とコラボして進めます。

*どこでやるの？

千葉県の一割を占める印旛沼流域には、大小さまざまな無数の谷津が存在します。そのなかから、私たちの実験場にふさわしい谷津を選定するため、昨年度の9月、12月に印旛沼流域の谷津を調べました。その結果選ばれたのが、前年度まで印旛沼環境基金助成事業のフィールドとして活動してきた佐倉市下志津地区の畔田谷津(左地図)です。フィールドの近くには最近移設された志津霊園があります。

*何をやるの？

調査には、千葉大学の卒論の学生2名も参加します。今回の水質分析の目玉は、「同位体分析」です。これまでも何度か窒素同位体分析は実施してきましたが、今回はさらに酸素同位体分析

地理院地図



図1 畔田谷津の位置

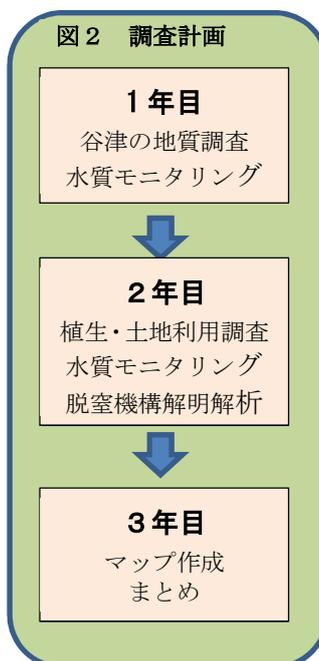
も加えて最新の知見をもとに脱窒の検証を行う予定です。果たしてうまくいくかどうか楽しみです。

成果は、印旛沼流域の谷津水環境マップとして広く公開する予定です。このマップは湿地の詳細な情報を加え、産・官・民それぞれが活用して印旛沼流域の水環境保全に活用してもらえることを目指しています。



畔田谷津の様子

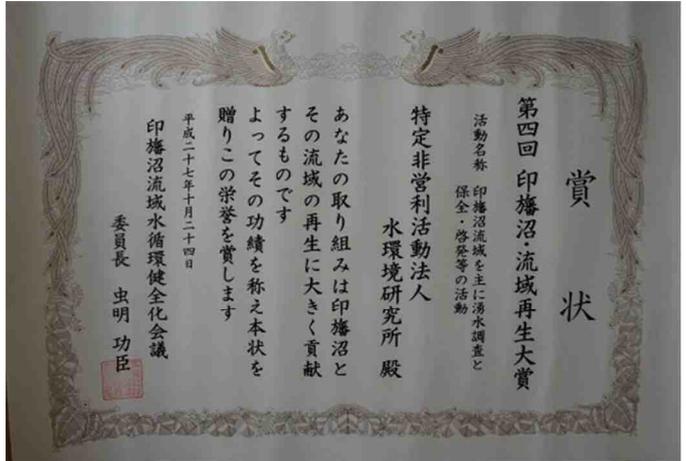
図2 調査計画



🌿 印旛沼流域大賞受賞！

当法人が設立されて12年目に入った昨年10月、印旛沼流域を拠点として活動を続けてきた実績が認められ、印旛沼流域水循環健全化会議より印旛沼大賞を受賞しました。

私たちの活動は地味ですが、長く広い視野で見れば印旛沼だけではなく、千葉県、日本も越えて地球環境につながるようなテーマを持っていることにお気づきでしょうか。そう！地球のかけがえのない水、その水で生かされている生命、その最も大切なものを私たちはテーマとしています。この受賞に恥じることはないよう初心を忘れず活動を続けていきたいですね。



🌿 ホームページがリニューアルしました



皆さん、既にお気づきでしょうか？ 実はホームページが新しくなりました。トップページも一新して見やすくなりました。どんどん、新鮮な情報を提供していきますので、皆さんもご意見、情報をどしどしお寄せください。

ホームページはここからお入りください。

<http://www.wakimizu.org/>

皆さんのご来場をお待ちしています！

🌿 平成28年度の役員が決まりました。

平成28年4月24日の理事会において、当NPO法人の役員が決まり、5月28日の総会で承認されました。任期は2年間です。

新しく理事に就任した木津会員はこれまで監事としてご尽力いただきました。また、新たに楠田会員が監事に就任されました。どうぞ、これからも宜しくお願い致します。

特定非営利活動法人水環境研究所 役員（任期 平成28年5月28日から2年間）

（順不同、敬称略）

理事長：瀧 和夫

理事：堀田和弘(副理事長)、中村正直(副理事長)、白鳥孝治、今橋正征、今井正臣、岩井久美子、田村嘉之、辻隆司、湯浅岳史、山濱裕、木津利矩

監事：松岡義浩、楠田隆

ご参加ください

★畔田谷津調査(千葉県再生基金助成事業)

千葉大学との共同調査 2 回目です。前回に引き続き、モニタリング調査の準備として観測井戸、流量測定のための堰づくりと土木作業を中心に実施いたします。ふるってご参加ください。

谷津田調査 平成28年7月3日(日)
集合場所・時間 小田急ゴルフクラブ駐車場 9:15

参加ご希望の方は事前にお申し込みください。

TEL : 080-6515-6497 (担当 岩井) E-mail : kubi_0929@yahoo.co.jp

巡検「産業廃棄物処分場の見学」

本年度は以下の内容で巡検を実施いたします。

巡検地：大平興産「大塚山処分場」

催行日：平成28年7月2日(土)

参加費：無料

集合場所と時間：申込の際にお知らせいたします。

申込方法：事務局 岩井まで

電子メール (kubi_0929@yahoo.co.jp)、又はお電話で (080-6515-6497)

★環境学習「水はどこから？」with八千代オイコス「川の学校」

八千代市で活動を繰り広げている八千代オイコスさんが、定期的で開催している「川の学校」に、今年は、水環境研究所が特別参加します。私たちは、小学校の親子を対象に水循環のお話と実験を行いますので、スタッフを募集します。

平成28年7月30日(土) 9:30~4:00 (1:00開場) 入場無料

集合：東葉高速鉄道緑ヶ丘駅 8:50 集合

参加ご希望の方は事前にお申し込みください。

TEL : 080-6515-6497 (担当 岩井) E-mail : kubi_0929@yahoo.co.jp

★湧水モニタリング調査

今年度も昨年度に引き続き、9月から各エリア別に湧水調査が始まります。今回は各コースの見どころを紹介いたします。お友達、ご家族をお誘いの上ふるってご参加ください。各コースのスケジュールは9月~12月に実施されます。皆様のご参加をお待ちしております。日程は随時メール、ホームページを通して皆様にお知らせいたします(お申し込みは 岩井080-6515-6497まで)

- ① 手賀沼エリア こん袋池、四季の丘湧水、増尾湧水など8カ所
- ② 外房エリア 神余の弘法井戸、灰汁井戸、清澄水など7カ所
- ③ 印旛沼エリア 加賀清水、上座公園、西御門など17カ所
- ④ 内房エリア いっせんぼく湧水、黄和田湧水、瀧不動尊など11カ所
- ⑤ 九十九里エリア 猿田神社、石尊様、龍福寺の湧水など11カ所
- ⑥ 奥東京湾エリア 羅漢の井、宮の下湧水、村田川湧泉など7カ所
- ⑦ 利根川エリア 権五郎目洗いの池、横山湧水、長寿水など6カ所

★マークの付いた活動に参加した会員には、当法人の規定に基づき交通費等の手当が支給されます。

シリーズ 湧水伝説

印旛郡誌に見る湧水と人々 (5)

社寺周辺の湧水

由緒ある神社仏閣の多くは谷津に近い台地上にあり、その谷津沿いに湧水があります。麻賀多神社周辺の七井戸、龍角寺周辺の八つ井戸、香取神宮周辺の十二井（ちば湧水めぐり参照）などです。これらの湧水は、社寺にかかわる人々の生活用水であったと考えられます。印旛郡誌には、この型の湧水が多く記載されています。

(1) 七井戸、真賀多池

七井戸は、神津村（現成田市公津）麻賀多神社四方三百歩外にあり。初井、花井、北井、南井、御手洗井、椿井、ともに神事に供す、とあります。麻賀多神社の氏子 宍倉左門氏によると、七井戸は、花井、初井、椿井、御手洗井、大井、寺井、南井、と言っています。また、現存する七井戸は、花井、御手洗井、椿井の三つだそうです（昭和61年）。

井戸は、台地裾に湧く湧水を溜めるように囲いをした形をしていて、現在でも、麻賀多神社の祭りの際に神輿を拭く神事に使っています。神社に祀られた伊都許利命（イツコリノミコト）らの生活用水を物語る名残かもしれません。

真賀多池は、舟形（成田市）笠松谷津の上に新旧2池あり猿田池と共に伊都許利命によって成るといふ。命の子浦長多津が病にかかったとき、麻賀多大明神に祈禱してこの池を作った、とあります（印旛郡誌に見る湧水と人々（4）水田灌漑用ため池参照）。

これらの湧水の池は、古代の人々の生活用井戸と思われまふ。



現存する七井戸の一つ「御手洗井」

(2) 牛もぐりの池

六合村（現印西市）池沼の記事に、「松虫の牛もぐり池、吉高の仙現池、山田の新池などあれども一荒蕪地に過ぎず」とあり、牛もぐりの故事には触れていませんが、牛もぐりの池には、松虫寺の故事があります。

天平の昔（8世紀）、聖武天皇の皇女松虫姫が、病の療養のために僧行基を道案内にして牛に乗って萩原郷出戸の薬師如来を頼りにこの地に訪れた。数年後に治癒して京に帰るとき、老いた牛では道中無理として牛を置いていくことにした。牛は悲しみ、池に潜って死んだ。その池が牛もぐりの池ということです。天皇は、姫の全快を喜び、松虫寺を建立し、その地を松虫村と呼ぶようにしたとのことです。

牛もぐりの池は、松虫寺に近い谷津の谷頭にあり、ながく農業用水の溜池として使われていましたが、現在は住宅団地の調整池となっています。

（文・写真 白鳥孝治会員）

事務局からのお知らせ

事務局より会費納入のお願い：前年度会費未納の方は、お支払いをお願いいたします。

お支払方法：銀行振り込み（振込先 千葉銀行 本店営業部（普通）3706977
又は事務局へ直接（080-6515-6497）

本法人は皆様の会費により運営されており、活動に伴う消耗品や活動参加者への交通費、日当等に充てられています。どうぞ会員の皆様方には、ご理解とご協力のほどお願いいたします。

「わきみず通信」第18号

発行 平成28年6月17日

編集・著作 特定非営利活動法人水環境研究所

URL：<http://www.wakimizu.org/>

お問い合わせは下記まで

e-mail: office_iwe@wakimizu.org

*****編集後記*****

今、首都圏の水がめとなっている利根川水源のダムの深刻な水不足が騒がれています。いつものことじゃないかと何気にテレビの映像に目を移したら、そこに映っていたグラフを見て唖然とした。なんと、記録的な渇水となった平成6年をはるかに上回るスピードでダムの貯水量が減っているではないか！ 非常事態？ でも実感がわかない。あまりにも水源が遠いのです。昔、誰もが庭先の井戸水を使っていた頃は、水を身近にかんじていたことでしょう。今は、蛇口から水が出るのが当たり前と思う人が大勢います。このような環境で水の保全の重要性にどれだけの方が真剣に耳を傾けてくれるのか・・・かくいう私も無意識に蛇口をひねっています
